

<ともに過ごす楽しさ、ともに学ぶ喜びのある学校>



# 瑞穂小学校だより

発行 京丹波町立瑞穂小学校 令和3年3月23日 No.15  
京丹波町橋爪松山118番地 TEL: 0771-86-0009  
URL: <http://www.kyoto-be.ne.jp/mizuho-es/cms>

## 新たなステージに向かって

今年は、例年より早い桜の開花を知らせるニュースが届いています。瑞穂の地域でも数日前にウグイスの鳴き声が聞こえ始め、温かな陽射しとともに春の訪れを感じる頃となりました。



令和2年度は、学校休業という異例の始まりでしたが、改めて学校の当たり前を見直し、新たな生活様式で安心安全の学校生活を守ること、集団の学びのよさと価値について確認する機会になったと振り返っているところです。

さて、本日23名の6年生が、小学校の課程を修了し、卒業を迎えました。この1年間、学校のリーダーとして常に前を向いて、コロナ禍でできることを工夫しながら取り組んでいた子ども達です。状況の変化を受け止め、自分達にできることを考え、さらにそれを楽しむ姿まで見せてくれました。「令和の日本型教育」と言われる中では、目の前の解決すべき課題に対して、自分の意見を持ち、集団の中でその意見を出し合いながら、よりよい考えや方向性を見い出して、納得する答えを導き出すことが求められています。正に今年の6年生集団の姿が当てはまると思います。中学校でも主体的に考え、歩みを進めてもらいたいと願っています。

1年生から5年生も明日、それぞれの学年の課程を修了し、進級を迎えます。今年度の自分を振り返り、また新たな学年の目標を立てる、そんな春休みを過ごすことと思います。自分とじっくり向き合っ、次に進む準備をする機会として、次のことを考えてみてください。PTAの方が人権月間に6年生に読んでくださった「ひび割れ壺と少年」のお話です。

ひび割れた壺は川から家まで、入れられた水の半分しか運べないことを恥ずかしく、情けなく思っていました。自分の役割を半分しか達成できていないと思うからです。ところが、水を運ぶ少年に教えられて道中を見ると花の道が出来ているのです。水が漏れていることに気付いた少年が花の種を蒔いていたからです。そして、その花は家をいつも美しく飾っていたのでした。

「できていない」「自分の弱み」と思っている部分も見方を変えれば、何かの役に立っていたり、違うよさに通じていたりするのですが、自分ではなかなか気付くことが出来ないものです。

まずは、ありのままの自分を受け入れて、しっかり向き合ってみることで。そして、自分のよさに気付き、自信がもてた人は、さらに自分を輝かせる方法を考えてみてください。

自分のよさを自分で見つけられなければ、周りの人に聞いてみるのが大切です。必ず見つけている人、気付いてくれている人がいます。

1年の締めくくりにあたり、各御家庭でお子様の成長を振り返るとともに、物事の捉え方や考え方についても一緒に話してみてください。

この1年間保護者の皆様、地域の皆様には格別の御理解・御協力をいただき本当にありがとうございました。

校長 入江 貴美子